断章
旭川のアイヌ語地名研究
156

高橋 基

牛朱別川の表記の変遷

掲載写真①は、文化四年(一八〇七年)に旭川を通過した近藤重蔵が、牛朱別川のアイヌ語名を「ウシンベツ」と記録したものである。

写真②は、安政四年(一八五七年)に松浦武四郎が、旭川を調査した時の野帳(携帯用の手帳)に書いた牛朱別川のアイヌ語名の「ウシ、ベツ」である。

明治時代では、**地図①**の明治八年、開拓使地理課の『北海道石狩川図』では「ウシ、ベツ(Ushishibetsu R.)」明治十九年に設置された北海道庁の規範図と言われた、明治二十年発行の『改正北海道全図』では「ウスシペツ」。同じく明治二十年作成の『石狩国原野殖民地撰定概図』では、「ウシンベツ川」である。

このように、明治二十年頃までは、牛朱別川のアイヌ語表記は、基本的には、「ウシンペッ(usis-pet蹄・川)」であった。

ところが、明治二十三年に旭川を調査した永田方正は、翌年発行の『北海道蝦夷語地名解』で、牛朱別川の地名解を次のように書いた。

ウシシュペッ(Ushish pet 蹄川)――鹿跡多キ川。上川アイヌ某云フ、「ウシシュペッ」ハ、「イシシュペッ」ニテ雪水多ク下リ陸ニ氾濫スルヲ以テ名クト。

鹿や馬の蹄は、「ウシシ(usis)」と表記するが、永田方正は、「ウシシュ(ushish)」と「シュ」の表記をした。この永田方正の「シュ(sh)」の表記法が、特に地図などのアイヌ語地名の表記法として、明治二十年代後半から三十年代にかけて定着したのである。

明治二十三年九月二十日に、上川郡神居・旭川・永山の三村が初めて誕生する(庁令第六十一号)。今回は、牛朱別川との関連で、旭川村と永山村の庁令第六十一号による分界を紹介する。

旭川村――「南東ハチユプペツ川(忠別川)北ハウシシユペツ川(牛朱別川)ヲ界トス」

永山村――「南ハウシシユペツ川(牛朱別川)北ハ石狩川ヲ界トス」

このように、三村の村界は、河川によって分界されて設置されたのである。

旭川村と永山村の分界河川は、牛朱別川で、その表記が「ウシシユペツ川」となっている。この牛朱別川のアイヌ語表記の「シユ」が、永田方正のアイヌ語地名表記を踏襲しているのである。また、牛朱別川の漢字表記は、「ウシシユペツ」に漢字を当てたことが分かる。

地図②の陸地測量部の明治三十一年製版の『北海道仮製五万分一図』の牛朱別川も、「ウシシュペッ」で、永田方正のアイヌ語地名表記が採用されている。

右の五万分一地形図の牛朱別川は、明治四十一年改版で、「朱」の脱落した「牛別川」と漢字表記され、大正五年測図、同八年発行の五万分一地形図で、初めて現在の「牛朱別川」と記載された。

なお、十勝の豊頃町にも同じ、「ウシシュペッ」があるが、こちらの方は、「牛首別川」の漢字を当てている。

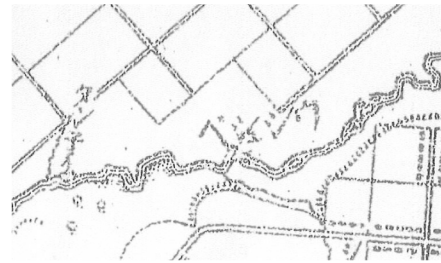
(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第1週号に掲載します

① 近藤重蔵

② 松浦武四郎

①明治８年『北海道石狩川図』



②明治31年『仮製５万分の１図』